

# The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室  
発行人：出版室長 寺本 亮洞  
〒520-0113 大津市坂本 4-6-2  
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)  
Eメール：T-Press@tendai.or.jp

平成31(2019)年1月1日 火曜日  
(毎月1日発行) 1部50円(消費税込・送料別)

天台ジャーナル



広報天台

## 全国一斉托鉢を実施

### 共に分かち合うところをもって

天台宗では、「伝教大師のご精神を現代に生かそう」と毎年12月1日に全国一斉托鉢を実施しており、昨年も同日に行われた。今回で33回を数えるという長年に亘る行事で、今では「師走の風物詩」といわれほどに定着している。この日を含め、全国各地で行われる托鉢に寄せられた浄財は、一隅を照らす運動 総本部の地球救援募金などを通じて、国内外の福祉活動への支援に活用される。

全国一斉托鉢は、昭和61年に故山田恵諦天台座主猥下が先頭に立って浄財の勧募にあ

たられたことが始まり。以来、毎年実践されてきたが、平成9年からは、12月を『地球救



謹んで新年のお慶びを申し上げます

天台宗  
一隅を照らす運動総本部

援活動強化月間」と定め、実施日の1日の托鉢はもとより、長期間に亘る街頭募金やバザーなどの様々な形での活動を呼びかけ、教区本部や各部・寺院単位での実施が続けられてきた。

こうした取り組みが今では師走の行事として定着し、全国各地で数多くの方々から心のこもった浄財が寄せられるようになってきている。

同日の比叡山坂本地区で実施された托鉢では、森川宏映天台座主猥下をはじめ、杜多道雄天台宗務総長、小堀光實延暦寺執行、延暦寺一山住職、天台宗務庁役員など約100名が参加。宗祖伝教大師生誕の地、生源寺で森川

座主猥下の導師で法楽を修した後、坂本地区の里道を家々の戸口で読経しつつ行脚し、浄財の寄進を受けた。(写真 行脚で訪れる家々では、玄関口で托鉢の一行を待ち受ける人も多く「どうぞ困っている方々のために」との言葉を添えて浄財を寄せていた。

その後、地区の一軒一軒を訪れる戸別托鉢やJRや私鉄の駅頭での街頭募金も実施された。この日の托鉢で寄せられた浄財は、NHK歳末たすけあい運動と海外たすけあい運動に寄託された。

その他の托鉢で寄せられた浄財も、各地の社会福祉協議会や日本赤十字社に寄託される。



坂本地区での托鉢と共に行われた街頭募金は、JR比叡山坂本駅、大津京駅、堅田駅や京阪坂本比叡山口駅頭で実施された。毎年行われていることから「ご苦労様です。どうぞ恵まれない方に」の言葉を添えて心のこもった浄財が寄せられていた。

### 極微

新しい年の始まり。「心機一転今年こそは」と意気込むのは毎年のこと。慚愧の念に責められた末に新たな希望にすぎない凡人であれば、幸多き人に羨望を感じるのは当たり前のことか。芭蕉にこんな句がある。「春立つや新年ふるき米五升」。「新年にあたって、貧乏暮らしながらも去年から持ち越した古米が五升あるではないか。少ないといえども、わが庵の暮しは幸せな方ではないか」ということだろう。「上を見れば切りがない、下を見ても切りがない」。新年にあたっての大半の人々の心境は、こんなところだろうか。▼もちろん、そうはいっても、災害などで最愛の人を失ったり、家をなくしたりした人から見れば「めでたさも中ぐらいなりの春」などといった心境は、それさえも羨ましい限りであろう。▼世界に目を転じれば、8億人を越える人々、9人に1人が飢えに苦しんでいるという。一方で、世界の富の8割は1パーセントの富裕層が独占しているという。格差が今後ますます広がる予想され、ため息しかない▼さて、本年はどんな年になるだろうか。日本は去年のように風水害など、天災の多い年となるのか、穏やかな年となるのか。その中には、「自国ファースト」を声高に主張する世界の荒い波に、我が国はどう対処していくのか。悩み多き年となるのは確かかなようである。